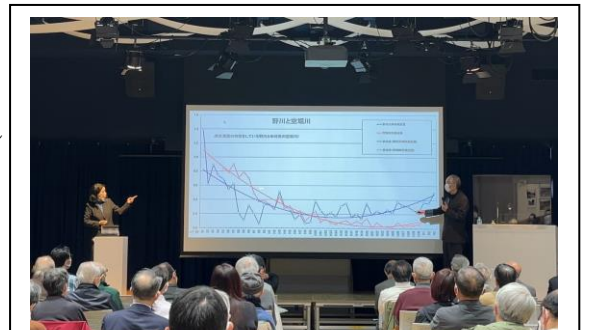


【第18回国分寺市環境シンポジウム開催】

令和5年2月19日（日）に、第18回国分寺市環境シンポジウムを開催しました。当日は、会場参加者95名、オンライン参加者30名と盛会の中、「国分寺の湧水・池・野川・水循環～地下水の恩恵～」をテーマに、水循環研究所長の飯田輝男さんにご講演いただいたほか、市内環境団体の活動紹介等を行いました。

今回お話いただいた飯田さんのご講演では、国分寺市域の湧水、地下水の課題を明確にした上で、その課題解決の道筋を示していただきました。

講演の中で、国分寺市の湧水を大切にするためには、地下水の減少が起きないようにすることが大事であり、市内11か所の湧水地点、「姿見の池」、「真姿の池」、「野川」などを守るためには、雨水浸透ますを設置し、湧水の保全・復活を一層進める必要があるとお話がありました。また、国分寺市を含めた玉川上水と多摩川の間地域では、周辺河川等の通水による地下水涵養が必要であり、「姿見の池」、「真姿の池」、



第18回国分寺市環境シンポジウム

「野川」などの恩恵を受けている国分寺市域地下水質は、近年良くなっているものの、水質改善のために、野川のコンクリート3面張りを、自然河川化することが大切とのことでした。また、東京都で行っている、小河内ダム上流涵養地の針葉樹をより保水力のある広葉樹に転換する事業など、地下水量を増やす事業が進められていることなど、湧水保全のための重要な取組を紹介いただきました。



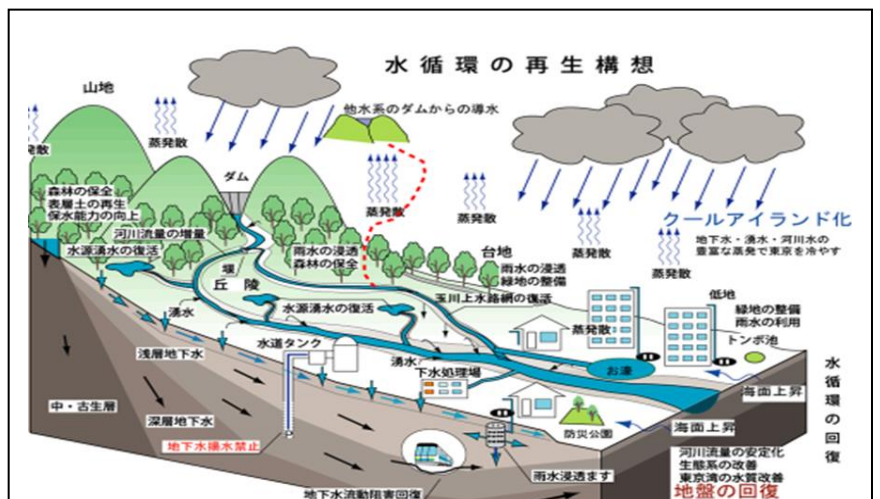
雨水浸透ます

きました。

地下水の増量が熱帯夜を少なくする、という熱帯夜と地下水量の相関関係を示していただき、地下水は地球温暖化の抑止にも繋がることに、地下水の恩恵を深く感じました。

ほかにも、「姿見の池」で水質悪化の現象として話題となっているアオコの発生対策として、ユキヤナギ、ヤマザクラ、ヤナギを水辺に植樹することが有効であるなど、地球温暖化の問題に貢献できる自然が持つ「水循環」の仕組みを知るとともに、水循環を再生する必要性、地下水の保全の大切さと課題、解決策の方向が示され、私たちが地下水量・水質を改善できる可能性が明快になりました。

市の環境保全の核となる地下水保全のための活動方向のヒントと勇気をくれたシンポジウムでした。



水循環の再生構想

【ナラ枯れの現状と対策】

ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシという5mm程度の小さな虫が、ナラ菌を樹木内に持ち込み、ナラ菌が樹木の通水機能を止めるために枯死が起きる現象です。東京都では令和元年頃より主に都心、多摩東部において被害が発生し、令和元年は数本であったものが、令和2年度に1,000本、令和3年度は3,200本、令和4年度5,800本と大量に発生しています。

国分寺市においてもエックス山や姿見の池等で、被害が発生しています。今後の発生については、他県の例を踏まえると沈静化までに5年ほどかかると予想されます。

当面の対策は、ナラ枯れにより枯死した箇所のある立木を放置すると、枝等が折損・落下して、道路、園路の通行者に危険を及ぼすため、伐採する必要があります。市内はこの対象がほぼ完了しました。伐採した枯れ木は、搬出されます。緑地の復活が課題であり、雑木林の更新、その場所でとれたドングリから苗木を育て、それを植えていくという事が必要になります。

また、ナラ枯れが起きた後、その樹木の周辺にカエントケという真っ赤な指のようなキノコが発生することがあります。食べると死に至るケースがあるほか、素手で触った場合でも、人によっては水ぶくれができるなど炎症を起こす可能性があると言われています。ご注意ください。

(環境ひろば会員 白木昭憲)



多量に発生したフラス

【砂川用水付け替え工事竣工】



①枯葉が溜まった水路

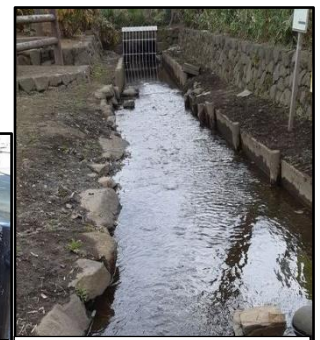
五日市街道に沿って300年近く流れていた砂川用水ですが、民有地内を蛇行して流れることで生じていた、溢水(いっすい)被害解消のための一部の用水路の付け替え工事が昨年4月に始まり、7月29日から止水されていました。工事が終わり、今年2月13日に玉川上水の取水口を開き通水することとなったため、止水期間中に大量に積もった水路の枯葉を取り除き、通水を迎えました。しかし、2月16日になっても水が流れて来ず、2月20日、東京都と立川市に立川市域の枯葉や取水口の詰まりを取り除いてもらって取水量が増えたことで、ようやく国分寺に水が届きました。ところが、枯葉等きれいにしたはずの国分寺市域では、写真①のように枯葉が随所で流れを阻止し、写真②のとおり、開渠となったワコーレマンション前まで水が届きませんでした。

10年ほど前にやはり同じように、美しい用水の会のメンバーが、用水の清掃を始めて、市内14カ所のゴミ詰まりを取り除くなど、きれいにしていた頃の状況を思い出しました。もちろん、同じように枯葉が詰まっているとはいえ、その時の水路周りとは比べ物にならないほど、はるかにきれいになって草花を楽しめるようになっています。

この記事原稿を書いている2月末現在、写真③のように並木公民館の北を流れる用水は、きれいに流れるようになっています。この記事の皆様が読まれる3月下旬には、きれいな多摩川の清流が流れ、護岸の花が春を感じさせるようになっていると思います。(美しい用水の会 佐藤 敬臣)



②ワコーレマンション前



③並木公民館北側

環境ひろばのお知らせ

4月16日(日)午前10時～正午 市役所 書庫棟会議室(戸倉1-6-1)

『環境ひろば』は、環境(保全、回復、創造)について市民・事業者・市が自由に意見交換を行う場です。皆様のご参加をお待ちしています。

(あとがき) シンポジウムの講師飯田さんが、国分寺市の湧水関係で多くの経験をお持ちになっていただけに、極めて具体的なお話で課題も見えてきました。その具体的活動を引き継いで、私たちが何をすべきか考える番です。色々な環境問題に取り組んでいらっしゃる市民活動団体の方にも環境ひろばに参加いただき、私たちが出来ることを大いに語り合いたいものです。(佐藤)

国分寺市環境ひろば事務局

国分寺市 まちづくり部 まちづくり計画課
〒185-0012

国分寺市本町4-1-9 本町クリスタルビル4階
TEL: 042-314-9005 (直通)

FAX: 042-323-9060

Eメール: machikeikaku@city.kokubunji.tokyo.jp